

第4回分科会活動報告

日時：2013年 10月18日（金）

場所：千葉工業大学 新習志野キャンパス、津田沼キャンパス

出席者：53名

記録者：須藤 園子（関東学院大学）

1. 配付資料

- 1) 2013年度第4回第二分科会プログラム
- 2) 2013年度第二分科会 参加者名簿
- 3) 千葉工業大学 高沼様 事例紹介資料
- 4) 2013年度第2回第五分科会開催について（ご案内）

2. 研究活動内容

1) 全体会 13時00分～13時15分

- (1) 千葉工業大学学生センター次長 森下進一様より会場校ご挨拶
- (2) 事務連絡
- (3) 幹事より2013年度第2回第五分科会開催についてご案内

2) 事例紹介「iPadの導入とペーパーレス化」

13時15分～14時30分

千葉工業大学 学生センター芝園教務課 課長補佐 高沼氏

千葉工業大学では、2012年9月よりタブレットの導入について検討を行い、2013年4月にiPad mini 約3100台を導入した。2013年度新入生約2600名にはWi-Fi版を、専任教職員約500名にはCellular版を貸与している。学生・教職員共に、使用上の制限を設けず、基本的に自由に使っている。また、AppleIDは各自で取得している。iPadのほか、Nexus 7、Android、Windows系OS搭載タブレット等を検討したが、2013年2月中旬にiPad miniを導入することを決定し、インストールするソフトウェアやアプリケーションを含め2013年4月に間に合うよう準備を進めた。iPadを新入生に配布した際、簡単な利用マニュアルを用意したが、学生は難なく利用しているようである。

iPad導入の目的は、①学内ペーパーレス化 ②必要な情報をすぐに確認 ③学生を孤立化させないこと ④学習教材等を配付 の4点であった。

① ペーパーレス

学生には学生便覧・時間割等を配信し、教職員には会議資料等を配信し、ペーパーレス化を実現している。同時に持ち運びの利便性も向上した。

会議資料等の電子配布により、用紙及び印刷コストの削減がされた。また、全学生へ

の確実な配布と配布負荷軽減及び時間短縮ができています。

② 情報の確認

学生に対する掲示を一元化でき、学生はいつでもどこでも掲示を見ることができる。また、安否確認などの重要情報は通知として配信することができ、情報の送受信により受信状況の確認を行うこともできる。

③ コミュニケーション活性化

学科単位やクラス担任単位での情報配信が可能になり、必要な情報だけを伝えることができる（学生と教職員間のインタラクティブコミュニケーション）。学生同士でのコミュニティ利用もできるため、学生の孤立化の防止にも役立っている。また、学生情報をデータ化できるので、学生・教職員間での情報共有が可能である。

④ 学生の学習支援

iPad mini で授業支援システム（富士通 Course Power）をより効率よく利用できる。学生は無線 LAN の環境があれば、いつでも授業支援システムにアクセスし、予習・復習の教材を確認できるので、学習の幅が広がる。最先端デバイスを使った IT スキル・知識の習得にも役立っている。

導入しているソフトウェア（アプリケーション）は以下の通りである。

・ Seap（アプリを作るためのソフトウェア）

学生便覧や防災対応マニュアル、ハンドブック等を全学生に確実に電子配布するために利用。サーバと定期的に交信し差分をチェックするため、電子配布されたものは常に最新の状態になっている。

・ EcoMeeting

会議資料等の電子配布に利用。電子配布された会議資料には iPad 上でメモが取れる。会議単位での設定が可能で、必要な情報だけを配信できる。サーバと同期しているため、資料（オリジナル及びメモ・付箋あり）を後から PC でダウンロードすることも可能。

・ manaba folio（SNS）

学生と教職員間のインタラクティブコミュニケーションに利用。学生同士のコミュニティを学生自身が作成することも可能。

・ 専用 Apps

上記のソフトウェアを 1 つの Apps に格納（学内の必要なサービスを集約）して、そこからサービスを展開。

・ MDM（iPad を管理するためのソフトウェア）

必要なアプリケーションや情報配信等を一元管理できるソフトウェア。iPad mini を紛失した時や不正利用が発覚した場合等は、管理者側からリモート（遠隔操作）でロックやワイプ（工場出荷状態）することが可能。

位置情報も取得でき、必要なソフトウェアを一斉配信することもできる。

学内外において iPad mini (Wi-Fi 版) で情報を得るために、通信できる環境が必要となり、両キャンパスの全域に無線 LAN を整備した。2013 年 4 月に合わせてパブリックスペースの Wi-Fi 環境を整備し、2013 年夏までに教室の Wi-Fi 環境を整備した。また、全国約 35 万カ所のソフトバンク Wi-Fi スポットが利用できるようにしている。

授業利用の際に集中アクセスによりサーバがダウンするような状況は今のところ起きていないが、今後、授業での利用が増加していった場合に、授業支援システム (富士通 Course Power) 等のシステムで負荷に耐えられるか懸念はある。

2013 年度新入生のみ配布したため、現在は掲示板や紙の学生便覧もあるが、いずれは廃止したい。学生が紛失した場合は、申請書を提出させ、代替機を実費負担で貸与している。

3) 討議 (ワールドカフェ形式)

あんなこといいな、できたらいいな 2 あなたがこれからやりたい業務は何ですか?

座長: 高沼 (千葉工業大学)、千葉 (関東学院大学)

14時45分~16時30分

(1) 座長より討議内容説明

(2) 各グループの討議記録 (各グループホストからの内容報告)

Aグループ テーブルホスト: 千葉工業大学 下田

○キーワード1 学生・教員のニーズをつかむ

新しいシステムの導入などをしていくが、学生や教員のニーズをきちんとつかまないと、導入したものが活用されなくなってしまうため、学生・教員のニーズをつかむことが必要だと考えた。

○キーワード2 部署の垣根をなくす

それぞれの課で様々な取り組みをしているが、全体を統一する人や仕組みがない。部署の垣根をなくし、全体をコーディネートすることができれば、業務の効率化を大学としても進めていけると考えた。

○所見: やりたい業務としてはシステムの導入、人材の育成などが挙げられた。

どのような業務をやる中でも使う人のニーズをつかむこと、職員同士のコミュニケーションや協力が重要だと感じた。

Bグループ テーブルホスト: 東海大学 黒澤

○キーワード1 「学生のため」という大きな目標

・ペーパーレス化など新しい取り組みは手段であるにもかかわらず、目的になりがち。「学生のために」という大きな目標のもとに、何が本当に必要なのか、考えて合理化、効率化に取り組みたい。

○キーワード2 「コーディネート」

・各部署間での情報交換が十分にされていないことがあるため、大学全体の業務

を理解し、調整しながら、新しい取組みの立案と実行をするコーディネーターが必要である。

・また、外部の客観的な評価を受けて、大学も企業と同様に変化することが必要になるので、1人ひとりが他部署の仕事について学び、コーディネーターになってきたい。

○ 所見

今回のワールドカフェでは、インターンシップ生から、ペーパーレスについて特に必要であると思う部分と不要であると思う部分について話を聞くことができ、大変参考になった。職員目線で考える合理化では、必ずしも学生のためになるとは限らないため、「学生のために何が必要なのか」という気持ちを持ち続けていきたいと感じた。そのためにも、日頃から学生や他部署の職員、教員と話す機会を大切にしていきたいと考えた。

Cグループ テーブルホスト：神田外語大学 梅村

事例発表を受けまして、第一セッションの議題は iPad 活用から開始いたしました。

iPad 活用にあたり、やりたいことはペーパーレスという共通見解に至り、ペーパーレスのメリット、デメリットについて意見が飛び交いました。

第二グループではペーパーレスのメリットと謳われるコスト削減に着眼し、ペーパーレスが本当にコスト削減に直結するのか、コスト削減の為に他に出来ることは何か、経験を多角的に意見を出し合いました。

第三グループではコスト削減から、<そもそも何のためにやるのか>という視点に立ち返りテクノロジーだけではなく、大学を俯瞰する視点でのディスカッションとなりました。学生の為に仕事をしているということを学生にも教職員間でも見える化していかなければ、テクノロジーの導入もカイゼンも本質を見失ってしまう、と大学職員としての原点に立ち返る時間でした。

そして第一グループに戻って行った意見交換では、どのチームを回った方からも「やりたい仕事」というテーマを出発時点より掘り下げて捉えた意見が飛び交いました。

そこで掲げたキーワードが2つ。

「学生のため！」

「人材育成！」

この2つです。

iPad を導入することもペーパーレス化も業務カイゼンも全ては「学生のため」に繋がらなくてはならない、そして大学として社会にもとめられる人材を育成しなければならぬ。大学職員としての仕事はすべてそこに繋がらなくてはならない、という結論に至りました。

Dグループ テーブルホスト：千葉工業大学 白石

○ キーワード1 「変化」

・例えばシステムの改善・電子化など。教職員・学生を含め変化に対応できない人に対する情報リテラシ的教育も併せて展開したい。

・ただし電子化を例にとった場合は紙からデータへの完全移行は難しい。紙には紙の良さがある、初めて書いて理解できることもある。物事によって使い分けが必要。

○ キーワード2 「学生目線」

教職員サイドの利便性を理由にしていないか？

学生の満足度に繋がる様に学生目線で物事を考えなければいけない。

○ 所見

今回のワールドカフェでは、インターンシップ生が同じテーブルにいたので生の意見を聞くことができ、職員とは別の視点からの切り口は新鮮かつ貴重だったと思います。

また、今回の講演テーマの影響か討議中は電子化・データ化に関する意見が多く出た印象でした。

Eグループ テーブルホスト：聖学院大学 飯田

○ キーワード1 「地域連携・地域スポンサー」

・企業から学生の奨学金を提供してもらいたい。

・学生は、奨学金がもらえ企業に自分のアピールでき就職につながる。

・企業は、奨学金やインターンシップを通じてよい人財の確保につながる。

・優秀な学生を紹介し、大学周辺の企業から奨学金や寄付をもらい、地域に密着した大学のスポンサーを増やしたい。大学の名も地域に広めることができる。

・2020年東京オリンピックに出場できる選手の育成をしたい。

・奨学金に冠をもうけることで、企業だけでなくOBなど個人奨学金も募りたい。

○ キーワード2 「ポートフォリオの活用」

・奨学金受給候補となる優秀な学生を知るためには、教職員が学生を把握することが必要。

・教職員担任制をもうけ、学生と直接接する。

・学生に接する事務部署はどんな学生がいるか把握しているが、あまり学生と接しない事務部署では、把握することが難しい。

・ポートフォリオを活用することで、企業と学生のマッチングができる。

・学生の情報をポートフォリオで共有すれば、学生と接しない部署でも学生を知ることができる。部署の壁を越えられる。

○ キーワード3 「効率化・コストを減らす」

- ・奨学金や寄付金、インターンシップ先など連携先を開拓するためには、入試以外の営業力が必要である。
- ・人員配置をみなおし、専門部署をつくれればよいが、各部署とも“忙しい”が阻害要因になっている。
- ・コストや余計な仕事を減らし、人に余裕をつくる。
- ・パソコンの省電力化など、コストを意識して減らす努力をする。一人一人の努力が大切であるが限界もある。コストを減らすため省電力のノートパソコン、低コストの複合機、書類・資料の電子化など環境を整える必要がある。

○ 所見

地域連携について、大学全学規模の大きなテーマであるがため、今までは特別な意識を払ってはこなかったが、今回のワールドカフェ討議にて、学生、企業・地域、大学の三方が大きなメリットを得られる可能性があることがわかり大変参考になった。

また、今回のワールドカフェ討議を踏まえ、普段の業務からすぐにできることとして、学生対応の際は、学生のよいところ・長所も含め、人物像が少しでも把握できるよう、意識して対応していくことを心がけていきたい。

Fグループ テーブルホスト：東海大学 高波

○ キーワード1 「他大学との連携強化」

編入先の大学と編入する学生の学生情報を共有できるシステム、教材やキャリア教育などのアプリの作成を単体でやると金銭面が厳しいので多くの大学と共同して取り組みたい。

○ キーワード2 「職員同士のコミュニケーション」

学生から窓口は張り詰めた雰囲気があって入りにくいとの意見もあり、部署内で配置換えを行ったり、パソコンから持ち運び便利なノートパソコンに変更し席は自由にしたりするなど、今まで以上に多くの人と接する機会を増やし、職員同士のコミュニケーション強化に取り組み職場の雰囲気を良い方向にしたい。

○ 所見

ワールドカフェの前に事例紹介で iPad の導入とペーパーレス化の講演があったため、講演に関連するやりたい業務の話が多く出た。インターンシップ生からも職員とは違ったペーパーレス化によるメリット・デメリットなどの意見も聞け、現代のシステムをどのように業務に関連付けていくかによって、さまざまなやりたい業務が考えられると感じた。

Gグループ テーブルホスト：中部大学 清水

○ キーワード1 「トータルコーディネータ」

導入済みの各種システムにユーザの声を上手く取り込める仕組みが欲しい。

学生や教員からの質問に対応する窓口を明確に定め、要望・改善案をシステムに反映させたい。

他部署と連携して多様なプロジェクトを進められるよう、部署間の調整を図る人・部門が欲しい。

従来のシステム部門はユーザと切り離された場所で運用に従事するのみなので、システムに関する知識をベースに将来はコーディネーターの役割に挑戦したい。

○ キーワード2 「オフィスのワークスタイル改善」

優秀な企業のオフィスを見習い、ローコストでオープンなオフィス環境を整備したい。

物理的な壁やパーティションを取り除くことで、職員同士のコミュニケーションが円滑になると思われる。

また、プリンタや FAX の配置、帳票などのファイルリングの見直し、ペーパーレス化等でコスト削減も可能となる。

事務コストの削減分を学生サービスの充実につなげたい。

○ キーワード3 「人材育成」

1つ目のキーワードとして挙げた「トータルコーディネータ」には、各部署の業務を理解するための豊富な知識と周りに信頼される優れた人格が求められる。このような人材は一朝一夕に確保できるものではないので、大学内で次世代の人材を意識的に育成していくことが必要である。

○ 所見

今回のワールドカフェでは、インターンシップ生や賛助会員の方と同じテーブルで討議ができ、職員とは別の視点からの意見を伺い、大変参考になった。学生から見て、大学の事務窓口には「怖い」イメージがあるとのことだった。事務職員側の「教育的指導を行う立場にある」という意識が強いため、怖い印象を与えているのかもしれない。笑顔で挨拶をしてから要件を伺うなど、各自の心掛け次第で窓口の印象はかなり改善可能だと思う。自分自身も初心に戻って、常に笑顔で快く対応することを心掛けたい。

4) 施設見学（新習志野キャンパス及び津田沼キャンパス）

16時30分～17時30分
以 上

